

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00756

研究課題名（和文）大学生を対象とした課題解決型中国語学習教材の開発：PBLでのSDGsを題材にして

研究課題名（英文）Development of Problem-Solving Chinese Learning Materials for University Students: On the SDGs in PBL

研究代表者

山田 留里子（YAMADA, RURIKO）

関東学院大学・人間共生学部・教授

研究者番号：60305795

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：ローカルで繰り広げられる複雑で困難な状況が多種多様な形でグローバルに広がる中、人類社会が危機を乗り越えていくための道標としてのその重要性が注目されている“SDGs”のゴールである2030年には社会の中核となる大学生を対象とした実践的中国語力の向上及び社会人基礎力としての課題解決能力の獲得を実現するための中国語学習教材を開発し、本教材の教育効果を検証することができた。

本教材は2019年に開発を完成し出版（駿河台出版社）しており、今後は現在本教材の教育効果を検証するため、PBL型中国語授業をLMSの可視化効果を応用し開発していくため、精密なデータ収集・分析を行い、研究を継続していく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急激なグローバル化を迎える中、人々を取り巻く環境が厳しさを増す現代に必要な「グローバル人材」の育成という観点から、「異文化理解力」や「語学力」に加え、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」及び「問題解決力」といった資質・能力の獲得が社会において目指されているが、本研究においては、「課題解決型」中国語学習教材の開発を、青年の活躍が期待されるSDGs（持続可能な開発目標）を題材とすることで、大学生を対象とした中国語教育への新たな教授法を展開できたといえる。

研究成果の概要（英文）：As the complex and difficult situations unfolding locally spread globally in a wide variety of ways, 2030 is attracting attention as checkpoint for human society to overcome crises, and is the goal of the SDGs. We will develop Chinese learning materials to improve practical Chinese skills for current university students, who will go on to be the core of society in 2030, and to help them as working adults acquire basic problem-solving skills. The educational effect of this teaching material has already verified. This teaching material was completed and published in 2019 (Surugadai Publishing Co., Ltd.), and in order to further verify the educational effect of this teaching material, we plan to continue research by collecting and analyzing detailed data in order to develop PBL-type Chinese classes by applying the visualization effect of LMS.

研究分野：中国語教育

キーワード：中国語教育 ICT SDGs ESD LMS 可視化 社会人基礎力 中国語コミュニケーション力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)大学生を対象とする中国語学習教材の開発研究の現状として、「多文化理解」や「国際理解」に関するものは開発されてはいたが、急激なグローバル化を迎える中、人々を取り巻く環境が厳しさを増す現代に必要とされる「グローバル人材」の育成という観点からの中国語学習教材は、当初においては見当たらなかった。

(2)上記の背景の中で、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」、「問題解決力」といった資質・能力の育成も可能とする「課題解決型」中国語学習教材の開発が急務であった。

2. 研究の目的

(1)学生の学習意欲を向上させ、中国語コミュニケーション力を高めることを目指した「音楽型」及び「体験型」の中国語教材を開発し、その教育効果を検証しているため、本研究ではこれらの教材を基盤にし、現代社会におけるグローバル人材として求められる「コミュニケーション力」、「チームワーク力」、「問題解決力」等を育成する「課題解決型」教材の開発を目的とする。

(2)特に、本研究においては、特に青年の活躍が期待される SDGs (持続可能な開発目標) を題材とし、その目標達成のために行われている ESD (持続可能な開発のための教育) の実践例を分析しながら、本教材内容を構築し、PBL での実践に必要な語彙・文法を中国語教育法の理論をベースに、開発した教材の教育効果の検証を行った。

3. 研究の方法

(1)研究代表者は全体研究計画を立案し、研究分担者及び研究協力者と共に研究活動を推進した。

研究協力者は、具体的には以下のような協力を行った。

- ・金永兵教授：中国語教育に基づいた中国語教材内容の指導。
- ・楊強先生：プロジェクト科目における連携。
- ・辺明江先生：中国語教材の中国語翻訳におけるネイティブチェック。
- ・佐野予理子先生：教育効果のデータ入力及びグラフ作成及び共同発表。

(2)年度別進行状況は、以下の通りである。

平成 30 年度

中国語学習教材の内容を構築するために、研究代表者は、中国における PBL 科目を実施する際の、実践的中国語会話文、語彙、文法をまとめ、整理した。これに関しては、プロジェクト実施提携先である北京大学中文系金永兵教授の対面による指導を受け、その必要性を討議し、基本的に完了した原稿をもとに 2018 年 9 月末に印刷・製本し、プロトタイプを完成した。

令和 1 年度

完成したプロトタイプを本学のプロジェクト科目及び中国語履修学生の秋学期の授業(6 セメスター)において、中国語学習教材として使用した。更に本教材を事前・事後学習として活用できるように、音声教材としての録音の準備を行った。授業アンケートなどによる意見収集も行いながら、教材に修正を加えながら、予定より前倒しで、「課題解決型」中国語学習教材として本研究目的の教材を市販のテキストとして出版した。更に、「課題解決型」中国語学習教材の教育効果の検証を行い、私立大学情報教育学会 2019 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会にて、「課題解決型中国語教材の ICT 活用による教育効果 PBL での “SDGs” を題材にして」をテーマに発表した。教材の開発目的やこの期間における一定の教育効果の検証は、学内外で発表する

ことができた。そのほか、本学企画による、横浜市立東高等学校との高大連携企画（「誰も置き去りにしない社会へ あなたができることを考えてみましょう」「ESDday」 in 関東学院大学 2019年7月17日）での模擬授業においても本教材を活用し、参加者からの高い評価を得ることができた。また、「課題解決型」中国語学習教材を有効的に学習することのできる副教材『直前対策！中検準4級・4級ドリル』（検定試験対策のための練習問題ドリル 及び音声教材）も駿河台出版社から出版した。

令和2年度

本年は、本教材の教育効果のためのデータ収集を中心に行っていく予定であったが、コロナ禍及び自身の体調不良及び、本研究の進捗状況からも、延長することが有益であると考え、1年間延長した。

令和3年度

既に完成した「課題解決型」中国語学習教材の教育効果の検証の精査を行い、令和3年8月22日（単独）CIEC（コンピューター利用教育学会）2021PCカンファレンス全国学会にて、「中国語力と社会人基礎力育成のためのSDGsを素材にしたオリジナル教材の教育効果」をテーマに発表し、『CIECカンファレンス論文誌』（ニューノーマル時代の教育・学習に投稿し、論文とした。また、これらの教育効果の検証と並行し、『中国語で学ぶSDGs-はじめよう！わたしにできること』、『中国語圏の言葉と文化-ワークブック』、『卒論・レポート作成に役立つ中国語ポイント文法』などの中国語に関する副教材も開発することができた。そのほか、横浜市立東高等学校や神奈川県立茅ヶ崎北稜高等学校の高大連携企画（「誰も置き去りにしない社会へ あなたができることを考えてみましょう」「ESDday」 in 関東学院大学）での模擬授業においても、本教材及び副教材を活用し、参加者からの好評を得た。本教材では“SDGs”を素材として盛り込んでおり、現在もローカルで繰り返し広げられる複雑で困難な状況が多種多様な形でグローバルに広がる中、人類社会が危機を乗り越えていくための道標としてのその重要性が注目されているのは確かであり、“SDGs”のゴールである2030年には、現在の大学生が社会の中核となることは間違いない。

今後の研究の展開については、既に本教材を活用したPBL型中国語授業の開発も予備的研究として進めているので、より積極的な研究を進めるにあたり、本教材の教育効果を検証するため、本学のLMSの可視化によるより精密なデータ収集・分析を行い、成果は国内外の学会で発表する計画である。本研究が、令和4年度から新たな科学研究費助成事業（基盤研究C）の採択を得ることができたことは、本研究を基盤にした、更なる研究に繋げる大きなエネルギーとなったといえる。

4. 研究成果

(1)中国語学習教材出版

令和元年4月には、本研究課題の目的である『SDGsを題材にした課題解決型中国語』を完成し、駿河台出版社から出版し、音声教材も同時に完成することができた。これによって、本学の中国語授業でも採用でき、教育分野関係者にも配布することができ、高い評価を頂いた。また、平成31年3月2日には『SDGsを題材にした中国語学習教材の開発と教育効果～大学でのPBL科目を中心に』『環境活動SDGsと共にグローバルに考え地域から行動しよう！』第25回環境活動報告会（於横浜 かながわ県民センター）にて、横浜地域における社会活動発表会にも学生とともに参加し、賛同の声を頂いた。更には、本研究の目的の一つでもある、中国語コミュニケーション力の向上のために、平成31年4月に『直前対策！中検準4級・4級練習合格ドリル』を完

成し、駿河台出版社から出版しているので、今後は国際舞台で活躍できるハイレベルの中国語コミュニケーション力の育成を目指す、「探究的な学び」を主眼に置いたテキストの編集にも力を注いでいく方針である。

(2)関連副教材作成

令和3年には、『中国語で学ぶSDGs-はじめよう！わたしにできること』、『中国語圏の言葉と文化ワークブック』、『卒論・レポート作成に役立つ中国語ポイント文法』の合計三冊を中国語学習副教材として完成することもできた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 山田留里子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 異文化理解の第一歩 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 改訂版 コミュニケーション入門 人間共生時代におけるコミュニケーション | 6. 最初と最後の頁 35-47 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山田留里子 | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 SDGsを題材にした中国語学習教材の開発と教育効果 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 第25回市民環境活動報告会 講演要旨集 | 6. 最初と最後の頁 31,37 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山田留里子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 中国語力と社会人基礎力育成のためのSDGsを素材にしたオリジナル教材の教育効果 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 CIECカンファレンス論文誌（ニューノーマル時代の教育・学習） | 6. 最初と最後の頁 86,89 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件／うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 山田留里子、佐野予理子 |
| 2. 発表標題 課題解決型中国語教材のICT活用による教育効果 PBLでの“SDGs”を題材にして |
| 3. 学会等名 公益社団法人 私立大学情報教育協会 2019年度ICT利用による教育改善研究発表会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山田留里子 |
| 2. 発表標題 「音楽型」・「留学体験型」中国語学習教材から「課題解決型」教材の開発へ |
| 3. 学会等名 日英言語文化学会（AJELC）大会 第14回年次大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 山田留里子 |
| 2. 発表標題 SDGsを題材にした中国語学習教材の開発と教育効果 |
| 3. 学会等名 第25回市民環境活動報告会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山田留里子 |
| 2. 発表標題 中国語力と社会人基礎力育成のためのSDGsを素材にしたオリジナル教材の教育効果 |
| 3. 学会等名 CIEC（コンピューター利用教育学会）2021PCカンファレンス全国学会 zoom開催（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 山田留里子、賀南、角屋敷葵 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 駿河台出版社 | 5. 総ページ数 208 |
| 3. 書名 直前対策！中検準4級、4級合格ドリル | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 山田留里子 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 駿河台出版社 | 5. 総ページ数 69 |
| 3. 書名 SDGsを題材にした課題解決型中国語 | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 山田留里子 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 株式会社 駿河台出版社 | 5. 総ページ数 69 |
| 3. 書名 『SDGsを題材にした課題解決型中国語』音声教材 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 橘 英範 (Tachibana Hidenori) (60236544) | 岡山大学・社会文化科学研究科・准教授 (15301) | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 金 永兵 (Jin Yongbing) | | |
| 研究協力者 | 楊 強 (Yang Qiang) | | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 辺 明江 (Bian Mingjiang) | | |
| 研究協力者 | 佐野 予理子 (Sano Yoriko) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |